WFP
We Support

ペガサス通信

NO.１９

2004 年 3 月 17 日　発行：ＷＦＰ応援団

WFP 応援団は、国連世界食糧計画(WFP)の食糧援助活動を支援するボランティア団体です

冬ももちろんイベント！

暖冬とはいえ、やっぱり冬は寒い。加えて BSE だの鶏インフルエンザだの、わたし達の食をおびやかす暗い話題も多い 2003 年から 2004 年。しかしながら、そんなことはものともせず、重ね着しホッカイロをしのばせ、世界中の飢えてる人々に少しでも食糧を届ける為に、わたし達 WFP 応援団はこの冬も多くのイベントに参加しました。

また、昨年に引き続いての WFP 協会主催の世界の学校給食写真展（横浜市庁舎･横浜 YMCA）の開催や、協会初のチャリティ･パーティがあり、そのお手伝いにも多くの応援団会員がかけつけました。

ダイヤモンド地下街
クリスマスイベント
12 月 23・24 日

ワンダーランドマーケット・
アンティークトイショウ
12 月 28 日　於:産貿ホール

International　！
鶴見国際交流祭り
1 月 25 日
於:鶴見会館

ワゴンがかわいい！
横浜駅わいわいフェスタ
1 月 31 日・2 月 1 日

「世界には悲しいこともたくさん起こって、悲しみの涙も流されたけれど、それを虹に変えられるのも人間です。ここに集まった笑顔が、その一歩になれば嬉しい」　～港南区国際ラウンジ祭りより～

「(写真を) 見ているだけで涙が出てきました。食べること、最低最高のよろこびが日本の今の子たちにわかるでしょうか。先生方に見て頂きたいものです。子どもたちの幸せを祈ります。」　～学校給食写真展の感想文より～

カンベンガ・マリール
イズ講演会　2 月 21 日
於:JAICA 横浜国際
センター

悲しみの涙を笑顔の虹へ！
港南区国際交流ラウンジ祭り
2 月 28･29 日　於:ひまわりの郷

泉区国際交流祭り
3 月 7 日
於:泉区役所

神奈川区　***友・遊***
まちづくりフォーラム
3 月 13･14 日　於:神奈川大学

ルワンダの悲劇から学んだ教育の大切さ

カンベンガ・マリールイズ講演会　2 月 21 日 JAICA 横浜国際センター

昨年国連大学で行われた「世界の学校給食展セミナー」で、パネリストとして参加されたカンベンガさんのお話に感激し、その場で応援団の講演会講師をお願いしました。講演会には 62 人もの参加があり、慌てて椅子を追加するほどの盛況。また参加者の内 23 人は応援団や WFP 関係者以外の方でした。

講演会では WFP の援助食糧が、生き続けることさえ困難だった子供たちにいかに希望を持たせたか、親たちに安心をもたらしたかを繰り返し語り、教育がいかに子どもたちの心を成長させるかをお話くださいました。講演会の後「ルワンダの教育を考える会」に対して入れていただいた募金は 19,580 円となり、会のグッズである、ストリートチルドレンの作ったカードや絵もたくさんのかたが買って下さいました。

建設中の学校：カンベンガ氏提供

講　演　要　旨

ルワンダという国

ルワンダは森林が多く涼しい気候で、農作物もたくさん採れる大変恵まれた国です。ドイツの植民地からベルギーの植民地に変った時、所有している牛の頭数によって部族に分割、教育を受ける権利も制限されました。言語はフランス語、英語、ルワンダ語、スワヒリ語が通じます。

難民となって

技術研修生として派遣されていた日本から帰国して間もない、1990 年に内戦が起こりました。多くの人と共に隣国のコンゴとの国境にあるキャンプにたどり着いたのですが、難民として一番辛いのは、自分の国を逃れ出て、歓迎されない国に無理やり入っていかねばならないこと。国で殺されるよりまだましと思う心もあるが、本当は帰国したい。地面が見えないほど人で溢れかえったキャンプで、何よりも力となったのは今まで受けた教育でした。キャンプでは偶然知り合った日本人医師の通訳として働くことができました。

WFP のマークが希望を運んできた

このキャンプで WFP に出会いました。難民の多くは WFP と読めないけれど、”とうもろこし、米、麦” のマークをつけたトラックを見ると喜んで声を上げます。子どもたちからは笑顔が生まれます。WFP からとうもろこしの粉･豆･油をもらい、生きるために食べることができるのです。できることなら、皆さんをキャンプに連れてきたい。食糧が配られているところを見れば、皆さんの善意をどんなに難民が待ち焦がれているかが分るでしょう。

生きるために必要なもの

「おなかがすいた」と訴える子供たちに、何も上げられないお母さんの気持ち分かりますか？ルワンダでは３ヶ月に一度豆の収穫があるのに。それだけの収穫で、子どもは飢えなくてすむのに。戦争は無知から生まれると私は思います。学ばなければ、自分や家族を傷つけた人を憎んだまま大人になって、また同じことか繰り返されるでしょう。生きるためには教育が必要なのです。

私は今、小さな学校を作っています。最初の頃、子供たちに「大きくなったら何になりたい？」と聞いても答えられませんでした。最初は 16 人、１ヶ月たった時は 60 人の子供が学校に来るようになりました。２ヵ月後、同じ質問をすると、子供たちはいろいろ夢を話すようになったのです。教育の力ってすごいです。今は 284 人の子供が学んでいます。できればこの学校を子供の成長に合わせ、中学、高校、さらには大学まで、発展させていきたいのです。

この講演会のテープから起こした詳しい記録をホームページに掲載しています。

～～～～カンベンガさんの講演を聞いて　＊＊＊　参加者アンケートから～～～～～

40 人近くの方から寄せられた感想には「日本ではルワンダの情報を得るのは難しいので、今回のような会は大変貴重です。命の大切さ、生きていることの幸福を教えていただきました。実体験に基づいた話は伝わってくる物があります。」という内容のものが多くありました。

＊誰にも奪えない頭の中の教育

「飢えている子どもに食べ物を与えてやれない辛さを、２度と味わいたくありません。命をつなぐ食べ物を得るために、教育は絶対に必要なことです。物は無くなります。でも、頭の中の教育だけは誰も取ることができない。戦争の原因は欲望と無知にあります。人と人が憎みあい、殺しあうことからはなにも生まれてきません。」

このお話に集約されているルイズさんの教育に対する「本気」が、聞いている人たちのお腹にストンと落ちてくるようでした。子どもたちに捧げる情熱に打たれ、並々ならない意志の強さを感じました。

＊日本の平和を

「人は持っているものしか人に分けることが出来ません。
５年日記、１０年日記、そして 30 年間ローンなどが可能な日本は、本当に平和です。１度捨ててしまった平和を取り戻すことはとても難しいのです。どうぞその平和を大切にして、世界の他の人に分けてください。まず、笑顔を。」

カンベンガさんのこの言葉に、目が新たに開いた気がします。平和慣れしてしまった日本で『当たり前』だと思っていることや、不満に思っていることも、見方によって変わることに気づきました。

カンベンガさん達の学校

ウムチョ ムウイーザ

ルワンダ語で『良い文化学園』

このページで使用した写真は、「ルワンダの教育を考える会」からお借りしました

「難民全てに援助食糧が行き渡らないときがありました。そのようなときにも、共に苦しみを分かち合っている難民たちは、誰かのお腹が満たされ、誰かの命が助かっているということだけでも、よろこべるのです。」

こんなことが言えるなんてすごいと思いました。辛い体験をじっくり伝えるお話、人柄も感じられ、参加してよかったと思っています。

＊WFP の活動の原点がある

「畑つくりや学校建設、給食つくりには子どもを学校に通わせている親も雇い、給料を払いますが、その一部を子どもの学費として、学校に納めてもらいます」

学校運営の考え方が WFP 食糧援助の「Food for Work」「Food for Growth」「Food for Training」などの目指していることの縮図のようで、すごいと思いました。

＊

ルイズさんのお話は食糧の大切さを強く感じさせるものでした。大学の授業で「開発」を学んでおり、特にテーマに「Food Aid」を選んでいますが、ルイズさんのこの気持ちは「Food Aid」を勉強する上でとても大切な物だと思います。また、草の根レベルの活動の重要さを再認識しました。

カンベンガ・マリールイズさんからのメッセージ

皆さん WFP に関心をお持ちの方ですから、非常に興味を持って、熱心に聴いてくれて、大変良い雰囲気で話しやすいでした。WFP は本当に素晴らしい活動をしているし、たくさんの人が助けられています。もっと多くの人に WFP のことを話していくといい。あまり知られていないのは残念です。応援団の方たちも是非現地に行ってみてきて下さい。するとみんなに伝えたい気持ちがずっと違ってきます。私は現在福島県内の近隣の小・中学校に年に何時間か話に行っていますが、あとはご依頼をいただいた時に随時話しに行っています。話に行けばたくさんの出会いがあります。これからも出会いを大切にしていきたいです。

プレスリリース

◇2 月 11 日 治安悪化がハイチにおける食糧配給を阻む
◇2 月 13 日 WFP、チャドに流入する避難民に救援物資を空輸
◇2 月 19 日 WFP深刻な状況にあるスーダン西部ダルフールに食糧を空輸
◇2 月 26 日 WFP、日本政府からエチオピアでの難民対策費 30 万ドルの拠出を受ける

http://www.wfp.or.jp
プレスリリースより

世界各地で自然災害や治安悪化により輸送路が封鎖されるなど、食料供給が困難な状況が続いています。

ボランティアさんにインタビュー♪♪

車椅子の行動派 原 佳子さん です

原さんは、現在 85 才のお父様と愛犬とお暮らしていらっしゃいます。では、インタビューStart！！

☆ 応援団に参加するようになったきっかけは？

2 年程前、磯子の国際交流の勉強会で。あまり出かけると父が文句を言うけど、幽霊会員じゃいけないと思うの。

☆ 参加して何か感想はありますか？

今まで以上に、食べ物を大切にするようになりました。少々まずくても残しません。食べる物でもなんでも、ぜいたくに使い捨てる生活はもうやめなければならないと強く感じています。

☆ 他にボランティアをしていらっしゃいますか

タイに学校を作り奨学金や給食プログラムなど、貧しい子どもたちを助けるための NGO「キャンヘルプタイランド」に、10年ほど前から協力しています。だから、カンベンガさんのお話もとてもよく分かりました。私は、募金していると必ず、たとえ 100 円でも入れることにしています。少しでも助け合わなきゃ。

☆ 今後の抱負を教えてください

木下大サーカスの切符を手に入れたのよ。それに 4 月には六本木で 「アジアの祭典チャリーティーバザール 2004」もあるし. . . アジアに興味を持ったのは、英会話の先生が東南アジアの方なのも影響したの。
時間と事情が許す限りいろんなところに出かけて、たくさんの出会いを楽しみたいと思ってます。

＊＊＊定例会報告 1/5･2/19＊＊＊

イベントの報告、反省、今後への提言など、詳しくは ML（メーリングリスト）で報告しています。ML 不参加の方はご希望があれば郵送します（会員のみ）

〇WFP 及びWFP協会より
- ･給食の絵葉書を作成する　5 枚で 600 円予定
  今後の応援団のイベント等でも販売してほしい

〇 研修部
- ･2 月 12 日 新会員のオリエンテーション実施

〇 会員担当部
- ･現在の会員 58 人、賛助会員 20 人
- ･ペガサス通信、講演会のお知らせの発送作業

〇 企画部
- ･2 月 21 日 研修部と共にカンベンガ･マリールイズさんによる講演会を実施

〇グッズ管理部
- ･イベント会場で押し花カード好評。残っているティッシュケースも再度講習会をして製品化したい

＊＊＊＊イベント情報＊＊＊＊

〇 **野毛大道芸** 4 月 17、18 日 野毛地区
〇 **WFP 世界の学校給食写真展**
　5 月10日～14日 逗子市役所1階ロビー
〇 **日清オイリオ磯子春まつり** 予定　4月中旬
〇 **横浜港まつり国際仮装行列** 予定　5月3日
〇 **開港際** 予定　6月

2004 年度総会のお知らせ
5 月 22 日　午後
於：横浜市市民活動支援センター
（詳細は後日お知らせします）

応援団の活動方針、役員改選、ハンドブックの改正などたいせつなことをきめるだいじな総会です。皆様の参加をお願いします。

WFP応援団
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 1-1-1
パシフィコ横浜 6 階 国連WFP協会気付
Tel.045-221-2515　Fax.045-221-2511

編集者
西尾悦子、村田祈世子、照沼久美子、野辺真紀、
庄子未咲、坂寄綾、
http://www.jawfp.org/oendan/